

成果報告書

提出日：平成27年10月8日

1. 渡航者

氏名	置田 清和	採択年度	平成27年度
部局	白眉センター	電話	
職名	特定助教	メール	
研究課題名	God as Paramour: Ethic and Aesthetic of Emotion in Early Modern South Asia (近世南アジアにおける感情の歴史)		
海外渡航期間	平成 27年 4月 27日～ 平成 27年 9月 1日		

2. 渡航に関する情報

渡航先	<p>国名：イギリス（4月28日～6月26日） 大学等研究機関名：オックスフォード大学 研究室名等：神学部、オックスフォード大学ヒンドゥー教研究所 受入研究者名：ガヴィン・フラッド教授</p> <p>国名：ドイツ（7月3日～14日） 大学等研究機関名：ハンブルク大学 研究室名等：アジア・アフリカ研究所 受入研究者名：ハルナガ・アイザックソン教授</p> <p>国名：ドイツ（7月20日～8月22日） 大学等研究機関名：ハイデルベルク大学 研究室名等：南アジア研究所 受入研究者名：モニカ・ホースマン教授、アーナンダ・ミシュラ助教</p>
渡航期間中の出張 (渡航期間中に一時帰国や学会参加等の目的で短期の出張があった場合、その目的、行き先、期間を報告して下さい。) ※複数回に渡る場合、適宜行を追加して下さい。	<p>出張先：バンコク、タイ 目的：研究成果発表 期間：6月27日～7月2日</p> <p>出張先：ローザンヌ、スイス 目的：研究成果発表 期間：7月15日～7月20日</p> <p>出張先：エルフルト、ドイツ 目的：研究成果発表 期間：8月23日～8月30日</p>

3. ジョン万プログラムによる成果

以下の項目について、渡航期間中の成果、または今後見込まれる成果を具体的にお書き下さい。ページ数については増加してもかまいません。

<p>国際共著論文の執筆 (論文の題名、雑誌名、共著者名、刊行予定等)</p>	<p>① 第十六回国際サンスクリット学会で発表した内容に基づき、‘The Andhra Connection: The Influence of Śiṅhabhūpāla II on Bengali Vaiṣṇava Aesthetics (仮)’と題した論文を<i>印度學仏教學研究</i>、第64巻で2016年に出版予定。</p> <p>② <i>The 12th International Conference on Early Modern Literature in North India</i>で発表した内容に基づき、‘Śiṅgabhūpāla II’s <i>Rasārṇavasudhākara</i> on Rūpa’s <i>Ujvalanīlamanī</i> (仮)’と題した論文をMaya Burger, Nadia Cattoniによる編書(OUP, 2017)において出版予定。</p> <p>③ <i>XXI. World Congress of the International Association for the History of Religions</i>で発表した内容に基づき、‘Salvation through Colorful Emotions: Aesthetics, Colorimetry, and Theology in Early Modern South Asia (仮)’と題した論文をBarbara Schuler編、<i>Emotion and Materiality in the Context of Change</i> (Brill, 2016)において出版予定。</p>
<p>更なる外部資金獲得に繋がる国際共同研究の立上げ／実施 (国際共同研究の内容、実施計画、応募予定の外部研究資金等)</p>	<p>① Rembert Lutjeharms博士 (Oxford Center for Hindu Studies)、Lucian Wong氏 (オックスフォード大学)、Ravi Gupta教授 (ユタ州立大学)らと共に<i>Bhāgavata Purāṇa</i> 10巻87章の注釈書に対するSkype講読会を立ち上げる予定。</p> <p>② Barbara Schular博士 (ハンブルク大学)、Jessica Frasier博士 (ケント大学)、Alexandra Wenta氏 (オックスフォード大学)と共に南アジアにおける感情の哲学についてのワークショップを企画中 (2016年5月)。</p> <p>③ Ferdinando Sardella教授 (ストックホルム大学)と協力に基づき、近世から現代にかけてのヴィシュヌ教ガウディーヤ派の共同研究を進める。これにより京都大学とスウェーデン4大学の提携に貢献する。</p>
<p>国際研究ネットワークの新規構築／深化 (参加した学会やその他の学術・交流組織、そこから構築／深化した研究ネットワークの内容等)</p>	<p>① オックスフォード大学ヒンドゥー教研究所(Oxford Center for Hindu Studies)のRembert Lutjeharms博士と共に2017年夏にオックスフォード大学に於いて<i>Building of Vrindavana</i>と題した国際学会を開催する計画を進めた。</p> <p>② 第十六回国際サンスクリット学会(<i>16th World Sanskrit Conference</i>)において‘The Kārṇāṭaka Connection: The Influence of Śiṅhabhūpāla II on Bengali Vaiṣṇava Aesthetics’と題した発表を行った (6月29日、バンコク、タイ: http://www.sanskrit-silpakorn.org/images/pdf/Schedule-academic_programme.pdf)。この学会において斉藤茜博士 (九州大学)と小倉智史博士 (京都大学)が主催する<i>International Workshop on Pre-modern Kashmir</i>での発表に招待された (9月23-24日、京都大学羽田記念会館: http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/hanedahall/hkk-nextmeeting/)。</p> <p>③ <i>The 12th International Conference on Early Modern Literature in North India</i>において‘The Kārṇāṭaka Connection: The Influence of Śiṅhabhūpāla II on Bengali Vaiṣṇava Aesthetics’と題した発表を行った (7月19日、ローザンヌ、スイス: http://wp.unil.ch/icemlni/programme/)。この学会に参加していたHeidi Pauwels教授 (ワシントン大学)、Swapna Sharma博士 (イェール大学)を上述したオックスフォード大学で開催予定の学会に招待した。また、Swapna Sharma博士からは2016年5月14～15日にイェール大学で開催される<i>Exploring Bhakti</i>と題したワークショップで発表するよう招待されている。</p>

<p>在外研究経験 による研鑽</p> <p>(渡航先機関で得た 研究の展開方法、研究 室の運営方法、教育方 針・人材育成方法等)</p>	<p>④XXI. World Congress of the International Association for the History of Religionsにおいて、‘Salvation through Colorful Emotions: Aesthetics, Colorimetry, and Theology in Early Modern South Asia’と題した発表を行った（8月27日、エルフルト、ドイツ：http://www.iahr2015.org/iahr/3114.html）。この学会でBarbara Holdrege教授（カリフォルニア大学サンタバーバラ校）、David Harberman教授（インディアナ大学）を上述したオックスフォード大学で開催予定の学会に招待した。また、この学会に参加されていた冨澤かな教授（東京大学）とFerdinando Sardella教授（ストックホルム大学）と共に、12月12～13日に東京外国語大学で開催される国際ベンガル学会（http://www.tufs.ac.jp/ts2/society/Bengal/taikai.html）でのパネル発表について打合せを行った。</p> <hr/> <p>①4月28日～6月26日の間、週に一回の頻度でオックスフォード大学ヒンドゥー教研究所において‘Hindu Theology for a King: Baladeva Vidyābhūṣaṇa’s Tattvadīpikā’と題したサンスクリット講読会を開催、18世紀に書かれた未刊行写本を読んだ（http://www.ochs.org.uk/lectures/by-name-sorter/Dr.%20Kiyokazu%20Okita）。これにより、サンスクリット講読の授業を提供する経験が得られた。また、参加者のRembert Lutjeharms博士、Jonathan Duquette博士（オックスフォード大学）から有益なコメントを得る事ができた。</p> <p>②5月13日と27日にGavin Flood教授とのチュートリアルを行い、感情の哲学についての洞察を深める事ができた。また、出版予定の本の序論に対するコメントを頂くとともに、オックスフォード大学出版会の編集者を紹介していただいた。</p> <p>③4月28日～6月26日の間、Imre Bangha教授（オックスフォード大学）、Lucian Wong氏（オックスフォード大学博士課程）が提供していた講読会に参加し、近世ベンガル語を読む貴重な機会に恵まれた。</p> <p>④7月23日に京都大学欧州拠点ハイデルベルクオフィスを訪見し、京都大学とハイデルベルク大学の提携についての理解を深めた。</p> <p>⑤8月3日～15日の間、ハイデルベルク大学南アジア研究所において、サンスクリット語会話の夏期集中講座に参加、サンスクリット語による会話を練習する貴重な機会に恵まれた。</p> <p>⑥8月21日にハイデルベルク大学においてBjörn-Ole Kamm博士（京都大学）とのミーティングを設け、来年四月から京都大学文学研究科で開講予定のTranscultural Studiesについて話し合った。</p> <p>⑦8月21日に 京都大学欧州拠点ハイデルベルクオフィスが開催したKyoto-Heidelberg Exchange Meeting for Young Researchers and Studentsに参加、Björn-Ole Kamm 博士、藤井崇教授（関西学院大学）と共に発表を行った（http://www.oc.kyoto-u.ac.jp/overseas-centers/eu/news/news-asean-news/20150905_2560/）。</p>
<p>フィールド研究 の進展</p> <p>(渡航先国で実施した 実地調査や文献調査 等の内容)</p>	<p>①7月3日～14日の間、ハンブルク大学のHarunaga Isaacson教授を訪見し、Singabhūpāla著<i>Rasārṇavasudhākara</i> 2章161-168節とその注釈書についての講読会を開催した。その結果を <i>International Workshop on Pre-modern Kashmir</i>において発表した（9月23-24日、京都大学羽田記念会館）。</p> <p>②7月21日～29日の間、ハイデルベルク大学のAnand Mishra助教を訪見し<i>Bhāgavata Purāna</i> 10巻3章27-36節に対するVallabhaの注釈書の講読会を開催した。またこの講読会を通してVallabha派の資料を手に入れる事ができた。</p>